

は し が き

教育にとって今日ほど多くの問題を抱えている時代はないと思われます。社会の急激な変化，高等学校への進学率の極限的な上昇等に伴って生徒の学力，学習への興味・関心，意欲，進路等にもますます多様化が進み，学習指導等に多くの困難な問題が生じてきているといわれています。国語科教育においても同様の問題が生じていますし，国語への関心や学習意欲の低下，また，読書量の質的量的な減少など，国語力の低下につながる様々な問題が指摘されるようになり，これまで以上に指導の充実が求められています。

新学習指導要領のなかでも，いわゆる「自己教育力」の育成を重視して，主体的に学ぶ意欲や態度，能力等を育てる必要があると強調されていますし，また，国語科教育に関わることとしては，特に表現力の伸長を図ることや，日本の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視した古典教育の充実が強調されています。

そこで，この研究では，一般に古典離れが著しいといわれる高校生に対して，古典の学習に興味・関心を持たせて，意欲的，主体的に取り組みせる学習指導はどのようにしたら可能かについて研究し，考察を深めてきました。

その一つの試みとして，指導の過程の中で音読等の活用と，課題学習やグループ学習等を取り入れた生徒の主体的，積極的な学習活動を組織するなどして，生徒の実態に即応した効果的な授業展開の工夫に努め，それを授業実践で検証するという方法をとったものです。

ご高覧いただき，日頃の教育実践に役立てていただければ幸いです。

終わりに，公務多忙にもかかわらずご協力いただいた研究員の先生，及び所属の校長先生はじめ諸先生方のご協力に対して，心から御礼申し上げます。

平成5年3月31日

新潟県立教育センター所長 大 澤 正